

第1回 6教振（後期計画）検討委員会意見概要

平成30年12月20日

意見者	意見概要
<p><論点1> 6教振の基本目標及び「目指す人間像」について</p>	
<p>阿部委員</p>	<p>市町村教育委員会の教育委員の一人として意見を申し上げる。</p> <p>5教振からの「いのち」の理念をつなぐ「目指す人間像」については、近い未来には地域とつながることにとどまらず、もっと広く大きくはばたく姿も求められると思うが、今のところはこのままでよいと考える。</p> <p>もちろん、目指す姿は同じでも社会の環境、子ども自身の生活環境の変化が大きい場合は、やり方を変えなければならないが、この3つの姿「目指す人間像」は、人との関わりが大切な要素になっていることはずっと変わらない。教育委員として自分が暮らす地域を改めて見つめてみると、中山間地域の生活は様々な問題を抱えながら営まれている。その中で小中高生の姿をみるのはとても嬉しいもので、生き生きとした児童生徒の活動に気付いた時こちらも元気になっていることがよくある。「目指す人間像」の実現に目を向ければ、子ども達の学びや学力をいかに高めるかを検討するとともに、大人の学びを充実させる工夫を行政とともに考えていく必要がある。大人自身が日々の生活で生き生きとした姿を見せていたら、子ども達はきっとその姿に気付いて何かを感じる。基本方針の生涯学習の部分だが、地域の実態に合わせた研修や体験を継続していくことが重要である。小さな規模であっても学びの場を企画して回を重ねていくことで、小さな一人一人の活力が少しずつ大きくなり、輪が広がり重なり合い、多くの人々の生きがいに結びつくと同時に地域の教育力となっていくのだと思う。資料に生き方をつなぐとあったが、家族の他に地域に信頼できる大人がいることで、悩みを持つ子どもの安心できる場所がそこに生まれると思う。地域が子どもを育てるという意味で、生涯学習をさらに重要なものとして位置付けてほしい。</p>
<p>有路委員</p>	<p>中学校教員の一人として意見を申し上げる。</p> <p>6教振の基本目標及び「目指す人間像」について、多感な中学校時代に、自分の存在を肯定的に捉えること、そして小学校で勉強を始めた頃の志を忘れずに、高校、大学へと歩みを進めていく人間であること、そして地域の中の学校として魅力ある学校・信頼される学校づくりを進めていくことを考えたとき、6教振が掲げる基本目標及び「目指す人間像」は妥当なものであり、これからも大切にしていきたいものと捉えている。</p>
<p>池田委員</p>	<p>自分の子どもが数年後には小学生になる。まさに今検討されている教育を、自分の子どもが将来受けることになるという観点で考えてみた。わが子は今「なぜなぜ期」で、親としてはこの「なぜ」と思う気持ちをずっと持ち続けてほしいと思う。好奇心を持つことが人の成長を促すと考えているので、好奇心を伸ばす環境が山形の教育にあればいいと願っている。</p> <p>基本目標はこのままでよいと考えるが、「目指す人間像」については、3つの「人」</p>

	<p>の考え方は今後も活かしつつ、近年注目されてきているLGBTやバリアフリーなどの「多様性」への理解や、先ほど述べた「好奇心」を育むという観点も入れ込めればと思う。</p>
大隅委員	<p>高校教育の観点から意見を申し上げたい。</p> <p>基本目標についてはこのままでよいと思う。「目指す人間像」については、「いのち」と「地域」をつなぐ教育に小・中・高校で熱心に取り組み、成果があがっていると感じる。私が勤務している最上地区においては、道徳教育の充実に力が注がれており、「いのち」の教育という観点でも、生徒は思いやりがあり良好な人間関係を築いているし、「地域」についても生徒が地域の行事・ボランティアに積極的に参加していることから良い傾向にあると思う。</p> <p>しかし、「学び」をつなぐことについては不十分であると感じる。自身の経験として、小学校で学ぶ「割合」の理解が不十分な生徒が何人かいて、高校の授業が円滑に進まないということがあった。</p> <p>本来、学びは小学校から中学校、中学校から高校へと積みあがっていくものである。各校種・各教科の学びがきちんと積み重なっておらず、「つなぐ」ことができていないことが山形県の課題であり、全国学力・学習状況調査のB問題を苦手としている要因の一つでもあると捉えている。「学び続ける人間」を育てるためには、各学校でさらに「学びをつなぐ」取組みに力を入れる必要があると思う。こうしたことから、「目指す人間像」の「学び続ける人」を、「学びをつなぐ人」と変えるべきであると考えている。</p>
落合委員	<p>親の思いという観点で、6教振の基本方針及び「目指す人間像」について意見を申し上げる。</p> <p>この基本方針及び「目指す人間像」ともに、その実現に向けて「山形が好きだ」という気持ちを育むことが大切である。山形の未来のために、子どもも大人も共にがんばっていききたい。学校においても、心から山形が好きだという気持ちを育ててもらいたい。先生方自身も山形が好きでないと、その思いが子ども達には伝わらないので、ぜひそういう気持ちで子ども達に関わってほしいと願っている。</p>
國井委員	<p>小学校教員の一人として意見を申し上げる。</p> <p>本校は今年度、県の探究型学習推進協力校として、県の御指導をいただきながら取組みを進めており、子ども達に力がついてきていると実感している。また、昨年度は、前任校である天童市立津山小学校で「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」に出場し、地元のジャガラモガラをテーマにした発表で大賞をいただいたことが、子ども達の自信と誇りにつながった。</p> <p>6教振の基本目標については、これからの不透明な時代に生きる子ども達にとって、「人間力」という総合的な力と、未来をたくましく生き抜いていく力はますます必要となり、そのままでよいと考える</p> <p>また、「目指す人間像」について、「いのちをつなぐ人」という観点では、これまでも継続的に取組みを進め、成果もあがっているが、自尊感情や自己有用感については、個々の子どもを見た時に差があると感じている。もちろん自尊感情が高い</p>

	<p>子どももいるが、一方で低い子どもも少なくない。その大きな要因となっているのが家庭教育である。家庭の中で、子ども達に望ましい自尊感情が育まれていない場合でも、学校でなんとかフォローアップしながら一人一人を大切に育てていかなければならないと考えて取り組んでいるが、その結果、学校の教員はとて多忙となっており、全教職員が大変な仕事をこなしている状況である。</p> <p>「学び続ける人」という観点では、個別の配慮を要する子どもが多く、低学年から高学年にかけて学習内容が難しくなるにつれて、さらに支援をしていかなければならない部分が増えてくる。中学校へと進めばさらに学習面での課題と支援の必要性が増してくることを見通し、「学び続ける人」を育てるための効果的な取組みを、今後も模索していかなければならないと考えている。</p>
栗田委員	<p>基本目標と「目指す人間像」は、むしろ変更すべきではないと考える。年数と時間を重ねることで、さらに山形らしさと重みが生まれると思う。いのちをつなぐ人間力、地域力、伝導力をもってすれば、様々な課題に対応できる、これらの力を育成するという教育の方向性は揺るがないのではないかと。</p> <p>一方で、自身が携わる農業の観点から見ると、以前は10年同じことをしていても通用したが、今は時代の変化が急激に進んでおり、スマート農業など新しいことを取り入れながら中山間地域でもニーズを捉えて対応していくことが求められている。また、昔は農業の大規模化が叫ばれた時期もあったが、国連では小農主義に変わってきている。個人の力が重要な要素として見直されている現れではないか。このような変化も捉えていく必要があると思う。</p>
小関委員	<p>ものづくりに携わる一人として意見を申し上げたい。</p> <p>自身の母校で講義をするときは、勉強は受験で終わるものではなく、一生勉強が必要だと教えている。たとえ、いい大学に入ったとしても、詰め込みで勉強したためにそこで燃え尽きてしまっはもったいない。自身の経験上、必ずしも難関大学でなくとも、様々なことに好奇心を持ち続けて取り組んでいる人の方が、社会に出てからより成功できると感じる。そのような生徒を育てるためにも、教える側が勉強を面白いと思いながら、楽しんで教えることが重要である。また、大人がいきなり教えるのではなく、大学生が高校生に、高校生が中学生に、中学生が小学生に、といった年齢が近い人が勉強を教えると学習が身に付きやすいということもあるので、好奇心を持って学び続けるには、そういった工夫も大切であると思う。</p> <p>また、近年外国人材が増えており、今後、教育現場においても外国人が増えていくことは必然的である。生徒同士が、どうやってコミュニケーションをとっていくかが楽しみでもあり、配慮が必要なところであると思う。</p>
渋谷委員	<p>高島町のうきたむ風土記の丘の館長をしている。私が担当する分野は、文化財の部分と考えている。</p> <p>6教振の基本方針はこのままでよい。「目指す人間像」のうち、「地域とつながる人」については、地域の未来を切り開いていく人、ふるさとを愛し、様々な形で地域とつながる人だと考えている。農村部でも地域の中でのものを考えることが難しくなっている。少子化はもちろん、若者が地域を離れる、また地域に残っても勤め</p>

	<p>先は地域の外にあるといった状況で、日常的に地域とかかわり続けることが難しい状況にある。こうした現実を見つめた上で、ふるさとを愛し地域とつながり続ける人を育むうえで、どのようなものが必要なのかと考えると、人を地域と結びつけるもの、紐帯（ちゅうたい）であり、地域を誇りに思えるものである。その一つが文化財である。先日、のど自慢に屋根葺き職人の一家が出ており、「地域が好き、仕事が好き、したがってこれを残すことが自分の責務だ」ということを話していた。こういう姿こそが本県の「目指す人間像」であると考えている。ふるさとを愛し、地域とつながり続ける人を育てることは、学校・家庭もそうだが、地域全体で考えていく必要がある。そういう観点をもっていきたい。</p>
高橋委員	<p>私は、特別支援学校の校長会を代表して意見を申し上げます。</p> <p>はじめに、基本目標については、事務局から提案があったとおり、これまでの県の教育の歩みを踏まえつつ、国の教育改革の動向や新学習指導要領の内容から見ても、継続すべきものと捉えている。</p> <p>次に、「目指す人間像」については、特に「いのちをつなぐ人」という点において、「多様性」や「個性」といった視点がさらに重要になると考えている。小・中・高校の通常学級においても、発達障がいのある児童生徒が多く共に学んでいる状況を踏まえ、自他のいのち・存在を大切にするという意味において、「多様性」や「個性」といった観点をさらに重視していただきたい。</p> <p>「学び続ける人」については、特別支援学校では「自立と社会参加」を目指して取組みを進めているが、学校教育において、仲間とともに豊かな体験に根ざした「対話的で深い学び」を重ねる中で自信をもつことが、次のステップである自立や社会参加につながっていくのだと認識している。</p> <p>「地域とつながる人」については、特別支援学校の場合、幼稚部から高等部までと幅広い年代の子どもたちが学んでおり、幼稚部の場合は家庭、小学部では小学校校区、中学部では中学校校区、そして高等部では市町村をまたいで通学しているというように、学校の中でも成長に応じて「地域」の見方が広がってくる特徴をもっている。鶴岡高等養護学校の高等部では、3年生は、庄内地区はもとより最上地区も対象としており、同じ「地域」という言葉でも、自分が住んでいる「地域」と、学校がある「地域」とで意味合いが違ってくるといった場合があることも考慮する必要がある。第3次山形県特別支援教育推進プランで重視されている「交流と共同学習」でも、例えば居住地交流においては、特別支援学校と、児童生徒が居住している地域の学校との連携・協働が重要であり、双方向の交流や共同学習を通して児童生徒に「地域」という基盤ができることが、将来の「自立と社会参加」につながってくると考えている。</p>
高見委員	<p>基本目標と「目指す人間像」は、そのままよいのではないか。6教振の中で、家庭・学校・地域の連携や支え合う仕組みが求められていることから、PTAでは、その役割と責任を認め合い、十分に理解し、親自身や家庭の教育力の向上を目指して活動している。日ごろPTAとして活動していると思うのは、子どもをいくら指導したとしても、周りの大人が自ら実践している姿を見せないと、子どもはできるよ</p>

	<p>うにならないということである。県では、このような基本目標や「目指す人間像」を掲げて教育に取り組んでいるということ、親達にも伝え浸透させて、親自身もこの「目指す人間像」のような行動を取れるようにする、その姿を子どもたちに見せるようにすることが大切なのではないか。</p>
千葉委員	<p>幼児教育の立場から意見を申し上げたい。</p> <p>基本目標については、6教振を策定した5年前から時代は変わっているものの、このまま掲げて十分に対応できるものと思う。</p> <p>「目指す人間像」の「学び続ける人」については、幼児教育は「遊びを通した学び」ということが教育要領の中に示されている。自身が見ていても、園児たちは大人がいなくても、子ども同士で遊びの中から様々なことを自然に覚えており、「学ぶ」という意識はあまりない。このような概念があることを念頭に議論をしていただけるとありがたい。</p> <p>「地域」については、幼稚園の周りで園児と散歩していると、おじいちゃん、おばあちゃんから声をかけてもらうなど、温かい環境であると感じる。「地域とつながる」というのはこれからも大切にすべきだと思うし、今後も「目指す人間像」に掲げ、重点的に取り組んでいただければと思う。</p>
眞壁委員	<p>教育の情報化という観点から意見を申し上げたい。</p> <p>これまで6教振において、ICT教育の充実という視点が入っていたとしても、実効性がどれだけあったのかを評価する必要がある。それぞれの取組みが点にとどまっており、県全体の取組みとして、線や面に広がっていないのではないか。その要因がどこにあるかもまだ見えてこないという状況にあると感じる。「学び続ける人」についての意見が出ているが、ICT教育という視点から申し上げますと、コンピューターやICTは、あくまでも人間が「こうなりたい」という願望や希望を加速・増幅させる手段・ツールであり、山形において、ICTを手段・ツールとして活用してどういう人間に育ててほしいのかという目的がないとうまく機能しない。</p> <p>基本方針は大きな問題はなく、そのまま進めてよいと考える。一方、「目指す人間像」の「学び続ける人」については、学習意欲は世界最低レベル且つICT活用も世界の中で相対的に低いレベルということ踏まえて、6教振後期計画でどこまで踏み込んでいくのかということを考える必要がある。また、ICTは、時間をコントロールできるツールであるという視点も重要である。現在、学校の先生方の勤務時間が問題になるほど、へとへとになるまで働いているという状況にあるが、ICTを有効に活用することで、その勤務時間をより効率的に使うことができる。ICTを活用することで、子ども達も先生方も支援できる部分が増えるのではないかとこの観点で今後も意見を述べていきたい。</p>
三浦委員 長	<p>基本目標と「目指す人間像」はそのままよいと考える。5教振から「いのち」をテーマに掲げて取り組み、6教振でさらに「つなぐ、学び、地域」という新たな要素を加えて展開してきたこの考え方は、今、日本の教育が求められていることを先駆的に取り入れた非常に価値の高いものである。これを大事にして後半の5年も取り組むべきと思う。</p>

	<p>一方、3つの「目指す人間像」の細かな部分は、見直す余地があるのではないかと感じる。例えば「いのちをつなぐ」「地域とつながる」の説明を見たとき、今までの社会がそのままに続く、自分達が持っている価値観の中で判断するという考え方が見え隠れしていると感じる。例えば「いのちをつなぐ」人の説明の中に「他者の生命や生き方を尊重する人」とあるが、これを読んだ山形県民は、どこまで「多様な」他者を思い描くだろうか。国籍の違う他者、文化の違う他者などをイメージできるだろうか。「地域とつながる」についても、今ここにある地域に子どもたちがどのように参加していくかではなく、子どもたちが新しい地域の在り方を創造していくという考え方をより強く打ち出すべきではないか。「目指す人間像」については、以上のような感想を持っている。</p>
<p><論点2> 施策体系（10の基本方針、20の主要施策）について</p>	
<p>(二順目) 池田委員</p>	<p>まず、全体的な考え方として、これからの教育では、判断、選択、決断、実行できる人を育てることが重要であると思うが、これだけAIが発達した時代においては、「なぜ学校に行く必要があるのか」ということにまで、立ち返って考える必要がある。決まった答えはないだろうが、学校へ行く意味を改めて見出していく、考えるということが、例えば「いじめ」を考えるきっかけ、糸口にもなると思う。様々な課題を捉えていくとき、「学校に行く意味」に立ち返るという考え方が山形県の教育振興計画にあれば、学校現場でも受け入れやすいのではないかと感じる。</p> <p>次に、具体的に基本方針や主要施策について2点意見を申し上げる。</p> <p>1点目は主要施策について、施策同士の横断的な関わりもほしいということ。一つの施策が違うところでも生かされているということは効率的な施策の展開にもつながる。例えばスポーツは、競技結果を出すこと、それが勇気や感動を与えるということが全面に押し込まれているが、元々は社会のリーダーを育成するツールとして発展してきた。スポーツは、選択や判断、状況に合わせた行動ができるなど数値では測りきれない能力を育成することができるものであり、スポーツに携わる身として、教育に関わる皆さんにはその価値を見直していただきたいと声を大にして申し上げたい。競技力だけではなく、スポーツを通じてどんな人材を育成したいか、そのようなことも盛り込んでいただければと思う。</p> <p>2点目は、資料を見させていただいたが、ずっと同じ課題を抱えて繰り返しあげているのではないかと感じる。スポーツであれば、人材の育成や流出ということだが、それはいつ解決するのかという見通しや時期を示した方がよい。そうすれば次の展開も見えてくるのではないかと感じる。</p> <p>最後に、また我が子を例にするが、その能力を最大化したいとは思わないけれども、我が子が何か「取り組みたい」と思ったときに取り組める能力が山形県の教育を通じて身に付いており、取り組める環境が整っていればよいと願っている。</p>
<p>有路委員</p>	<p>教員は基本的に真面目なので、10の基本方針と20の主要施策など、こうした計画が示されると、学力向上はもちろん、いのちの教育も、教科化された道徳も食育も情報教育もしなければならぬ、生徒指導も充実していじめもなくさなければならぬ、地域との連携も強化し、部活動も充実してと、すべてにおいてがんばらな</p>

	<p>なければならないといっぱいいっぱいになってしまう傾向にある。計画の中で細分化された具体的な取組みを示していただくのはありがたいが、そのすべてができなければならないと捉えられてしまわないかと懸念している。そこで、それぞれの学校で、地域の特性や学校規模、児童生徒の実情などを踏まえて、例えば10の基本方針があれば、本校ではこのうちの3つを重点として取り組むなど、優先順位の見極めが重要になってくると考えている。加えて、教員の大量退職・大量採用の時期にあって世代交代が進む中で、これまでの取組みの何を継承し、何を改善し、何を削減していくのかなどの見極めも私たち教員に求められていると考えている。</p>
<p>國井委員</p>	<p>私からは、小学校の現状がどうなっているのかということをお伝えしながら、県への希望を申し上げたい。</p> <p>このたび新学習指導要領が示され、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力を育てるための授業改善に、教員は日々取り組んでいる。一方、学びの主体となる子どもたちには、非常に疲れているという傾向が見られる。その「疲れ」の一つの要因として、テレビやゲーム、インターネット等のメディアの影響が考えられる。もう一つの要因として、愛着障がい関係しているのではないかと懸念をもっている。文部科学省の2、3年前の調査において、子どもの生徒指導上の課題で、小学校高学年が減少傾向にあるのに対して、低学年、特に小学校1年生での増加傾向が見られるという結果が示された。本校においても同様に、発達障がいではないけれども落ち着きがなくいらしている、疲れているような感じで学習に向かう気力が十分でないなどの課題が低学年の子どもたちに見られる。こうした子どもたちの様子を観察し検討してみると、その要因として愛着障がいと考えられ、教員は日々その子どもたちを支援しつつ、「育て方がわからない」といった保護者の相談にも励ましや助言を与えながらなんとか学習を進め、その結果として教員も疲弊してしまうという状況にある。</p> <p>こうした状況において、県に強く希望することは、教員がシンプルに子どもたちと向き合い育てていけるような視点を示していただくことと、子どもたちや保護者をよりきめ細かくゆとりをもって支援できるようマンパワーを充実していただくことである。</p>
<p>千葉委員</p>	<p>放課後児童クラブにおいて、学校から帰ったという解放感から、指導員の先生に抱っこやおんぶと甘えている子ども達の姿を見ると、愛着障がいを抱えた子どもが多く、学校が大変だという先生方のお話の実感として伝わってくる。</p> <p>近年、保護者が仕事等の理由で子どもと関わる時間が少なくなっていて、親が子どもとの関わり方を知らないということが増えてきている。また、保護者が子どもの性格や苦手な食べ物を十分に理解していないということもある。先生は子どもたちそれぞれの性格に応じて接することが大切であるため、保護者との会話の時間も確保したいが、保護者の時間がなくできないのが心苦しい。保護者がどうしたらもっと子どもに寄り添うことができるのかということも、今後の施策を検討するうえで考慮すべき点であると思う。</p>

眞壁委員	<p>先ほど、先生方も子どもも時間がなくて疲れているという話があった。首都圏であれば子ども達が疲れている要因も想像できるが、山形で疲れている理由はなんだろうと考えている。平均睡眠時間やメディア利用時間等の客観的データの把握や、適切な指標を掲げるための、効率的なデータの活用も検討していきたい。</p>
大隅委員	<p>先生方が疲れているというのは事実である。生徒はさらに多様化しており、先生方はその対応に追われている。有路委員の御意見のとおり、6教振に盛り込まれたことを、学校ですべて網羅しようとする、真面目な先生ほどより大きな負担を感じ、さらに疲れを助長してしまうことになりかねない。</p> <p>生徒が疲れているとしたら、長時間、ゲームやスマートフォンを利用していることよるものが多いと思う。決してメディアそのものが悪いというわけではないが、子どもたちがスマートフォンやネット等の利用を一時我慢するなど、自己抑制が難しいのが現状だろう。こうした自制心は重要な非認知能力の一つで、「マシュマロテスト」（アメリカでの4歳児を対象とした実験で、マシュマロ1個を前にして15分間我慢するとマシュマロがもう1個もらえるが、その時間を我慢できずに食べてしまう子どももいる。我慢できた子どもと我慢できなかった子どもの追跡調査をして、自制心がある後の人生にどのような影響を与えるかを検証したもの）の例にあるように、自制心の育成は、幼児教育から高校教育までの共通の課題であると考えられる。</p>
池田委員	<p>自制心を育むにもスポーツはよいツールである。様々な状況で我慢を強いられたり、自分の思うような結果につながらなかったりというような体験が容易にでき、自分自身の感情をコントロールする力が身に付くという点でもスポーツを推奨していきたい。</p>
片桐 教育委員	<p>教育委員の一人として意見を述べたい。</p> <p>子どもの居場所として、学校・家庭・地域があるが、それぞれ居心地のよい環境であることが大事である。最近、保護者の就労環境が著しく多様化している。子どもの自己肯定感にも差が見られる。併せて、地域格差・学校格差様々な格差が見られるが、格差のない学習環境を整えることが大事な責務であると考えられる。関係部局と繋がりながら施策を進めてほしい。</p>
森岡 教育委員	<p>私は、6教振を策定する際に検討委員を務めていた。教育の本質を不易と流行の観点から議論させていただいた。両方の議論をしっかりとっていくことが大事である。国の第3期教育振興基本計画をみると、グローバル化への対応が教育改革の必要性としてのすべての原点であるように書かれている。しかしグローバル化が、新自由資本主義のプロセスであるならば、その限りない経済的な欲望ゆえに、人類はこれをコントロールできていない。子どもたちが大人になる20年先は大国の経済覇権が世界を覆い尽くし「グローバル化」という概念さえなくなっているのではないかと思う。グローバル的多様化に対応した教育を進めていくことも必要であることは認識している。</p> <p>その一方で、教育はもっとシンプルにした方がよい。教育の根本は、能力に応じて、子どもの価値観や感性、価値を創造できることであり、基本的な教育内容の充実についても大いに議論されるべきであり、それが教育における不易である。</p>

<p>武田 教育委員</p>	<p>6 教振の基本目標を初めて見たときに、なんと壮大なテーマだろうと感じた。「人間力」という言葉に日頃私たちはきちんと向き合っているのか。そのために、人の役に立ちたい、社会の役に立ちたい、よりよい〇〇にしたい…と常に考えていく必要がある。基本目標はこれでよいと考えるが、もっと多くの方々に見える・伝わるようにしていかないといけない。</p> <p>働き方改革や、女性の活躍促進など、様々な社会の動きがあるが、保護者は忙しい。特に、母親の負担が大きく子どもと向き合う時間がない。先日、既婚家庭 500 人にアンケートをしたところ、約 40%の母親が仕事と家庭の両立が苦しいと回答している。一方、父親向けに仕事と家庭・地域に関するワークショップを開催したところ、以前と比較すれば子どもの教育への関心も増えていると感じた。家庭毎に子育てに関して二極化している傾向があると感じる。</p> <p>「学び続ける人」という人間像について、子どもだけでなく社会に出て会社に入ってからでも大事な視点である。マーケットは常に変化しており、企業においても人材育成は大事な視点である。学ぶ意義やワクワク感を大事にしながら行っている。学校においてもこの「学び続ける人」という視点を意識して育ててほしい。</p> <p>子どもの興味関心に親はどう関われるか。親は子どもの好奇心にどう気づき、どう伸ばしていくか。先ほどの話で、子どもへの関わり方が分からないという保護者の話があったが、身近に関わり方が上手な保護者もいる。そうした事例等を共有して広げていければよいのではないか。</p>
<p>三浦委員 長 【総括】</p>	<p>6 教振の基本目標及び「目指す人間像」については、現行のままで後期計画の策定を進めてよいという御意見が多かったと捉えている。こうした中で、一番御意見が多かったのは「目指す人間像」の中の「学び続ける人」についてで、それぞれの立場でそれぞれ違うイメージやお考えをもっていらっしゃる事がわかった。学校の先生方からは「小・中・高」の学びの接続についてお話しいただいたが、一方で学校を超えたところで「好奇心を持ち続けることが将来の学びにつながっていく」という御意見もあった。幼稚園の立場からは「学び」という言葉自体が豊かな感覚を持っているのか、幼稚園では「遊び」と表現する、という御意見もあった。方向性については共通の支持はあったものの内容については精査が必要と考える。</p> <p>基本方針、主要施策については、二つの大きな意見があった。一つは新しい項目を入れた基本方針や施策の構成に整理すべきということ。例えば ICT について主要施策に直接的に文言が入っていない。「社会の変化に対応する」というところでカバーしているのかもしれないが、時代はもう一歩進んでいるのではないか。</p> <p>もう一つは、学校の立場からすると、10 の基本方針を示されると、すべて達成しなければならないと捉えられ、実際に取り組むのは大変だという意見があった。</p> <p>最後に、私の意見を申し上げると、「目指す人間像」と基本方針・主要施策がうまくつながっていないように見受けられる。「目指す人間像」の「いのち」をつなぐ人については、どの主要施策により育成するのか。また、計画を立てた以上、「目指す人間像」がどのように達成されるのかも念頭に置かなければならないのではないか。今後、皆様と共にさらに検討を進めてまいりたい。</p>